

スズメがチュンチュン群れ遊び、ツバメはスイーと風の中を飛んでいきます。水の中を見ると、カレイやヒラメは海底にあり、カワハギやベラは岩陰を出入りしますが、サバやアジ、マグロやサワラは流れるように泳いでいきます。動物の行動は種類ごとに特徴がありますね。

今日は、そんな生き物たちのシッポを見てみましょう。

シッポがうちわのようになっているのはカレイやヒラメ、カワハギやベラですね。それに対して、マグロやサワラ、アジやサバは上下が切れ長になっています。どうしてシッポの形が違うのでしょうか？

それを考えるとき、ふと、身近な鳥たちの様子が目にとまりました。

スズメのシッポはうちわ型。ツバメのシッポは燕尾服といわれるように両端が切れ長でした。魚たちの違いと類似（るいじ）していますね。

ツバメは渡り鳥で長距離を飛んでいきます。それに対してスズメは里の鳥で、里と山との行き来くらいで、あまり長距離飛行はしません。すると、海の魚たちはどうでしょう。マグロやサバなどは回遊魚と呼ばれ、遠距離を移動しますが、カレイやカワハギは地付きの魚と呼ばれ、あまり遠くまでは移動しないといわれます。

この様に、動物の姿形とその行動は関係があるようで、それは海であっても、空であっても共通する仕組みがあるのではないのでしょうか。

専門的にいうと、流体の中での運動性と抵抗に関係していると考えられます。

このことから派生することには、

- |                |      |           |
|----------------|------|-----------|
| 地付き型には白身の魚が多い。 | 瞬発力型 | ・・・沿岸域に多い |
| 回遊魚には赤身の魚が多い。  | 持続力型 | ・・・沖合域に多い |

